県建設業協会谷山支部パト

安全管理の徹底を

県建設業協会谷山支部（八反田国広支部長）は11日、管内会員現場9カ所を対象にした安全管理パトロールを実施。役員、労務委員ら13人が参加して労働災害絶滅に向けて、安全管理の徹底を呼び掛けた。

出発式では、八反田支部長が「本日の成果を今後の安全管理に役立てて頂きたい」と挨拶。引き続き、重点診断事項の確認を行った後、2班編成で各現場に向かった。

パトロールは、宍ノ草線側溝整備・外城戸建設、稲出川改良・大塚建設、木之下慈眼寺団地線舗装新設改良（1工区）・前畠建設、田辺川水路改良・正和建設など9現場を巡視。このうち、中山町等の現場をパトロールした1班は、事務所内外の整理整とん、関係書類の記入状況、現場の安全管理対策等を入念に点検。現場代理人へ更なる安全管理の徹底を呼び掛けた。

また、パト終了後に谷山建設会館で行われた合同反省会では、数件の指摘事項はあったものの、重点事項を中心に概ね良好な安全管理・現場管理がなされているとの講評があった。

午後2時、同会館裏の駐車場に集合した参加者らを前に、同防燃水販売元の㈱クリスタル鹿児島の宮崎美弘社長と同製造元のアドコスミック㈱の遠藤敦彦社長らが「これからの建築は、安全の確保が第一に優先されてくる。今回の燃焼実験をご覧頂き、今後の木造建造物の設計に生かしていただけたら幸いです」と挨拶した後、準備された模型で燃焼実験が行われ、防燃水の燃焼抑止力に参加者らは驚きの表情を見せていた。

同会館2階に場所を移して行われた説明会では、ファイヤーレターデント防燃水について遠藤社長らが施工事例や成分について詳しく説明。参加者からは同防燃水に関する積極的な質疑が次々に出されるなど、感心の高さがうかがえた。

また、当日は「木造住宅の現況と古民家再生について」と題して、㈲木挽き工房の射手園武也社長が発表。古民家の再生にあたり、自身が苦労したさまざまな体験談に、参加者らは熱心に聞き入っていた。

安全管理を呼び掛けたパトロール
＝鹿児島市中山町の現場で

地域新エネビジョン策定委

年度内の策定目指す

鹿児島市

鹿児島市は11日、同市に鹿児島大学名誉教授の村松博久氏を選出し、協議に移った。

協議では、地域新エネルギービジョンの事業概要や策定業務計画、同市の新エネルギー導入状況などについて説明が行われたほか、市民1000世帯と事業所500カ所へのアンケート調査についての内容の検討を行った。

今後、アンケート結果や同市のエネルギー需給量や新エネルギー賦存量等について初期段階調査を実施し、現状の把握・分析を行うとともに、新エネルギーについての同市の基本理念や基本方向、新エネルギーを導入する場合の個別プロジェクト等の検討を行って年度内にはビジョンを策定する。

同委員会メンバーは次の通り。

会長＝松村博久▽副会長＝門久義（鹿児島大学工学部機械工学科教授）▽委員＝石窪奈穂美（消費生活アドバイザー）小田原智一（九州電力㈱鹿児島支店長）津曲貞利（日本ガス㈱常務取締役）久留正成（公募市民）村上直美（九州経済産業局環境資源部新エネルギー対策課長）村山雅子（かごしま市民環境会議代表）山中弘子（公募市民）中津川正宏（鹿児島市環境局長）川原勤（鹿児島市企画部長）

新エネルギー導入について協議した委員会
＝鹿児島市役所で

県建築士会南薩支部青年部

防燃水の実用公開試験も

県建築士会南薩支部青年部（中村繁部長）は11日、加世田市の南薩建設業会館で「木造住宅の現況」についての意見交換会を行ったほか、木造建造物の防燃剤として注目されている「ファイヤーレターデント防燃水」の実用公開試験も実施し、参加者の注目を集めていた。

燃焼実験に注目する参加者
＝加世田市の南薩建設業会館駐車場で

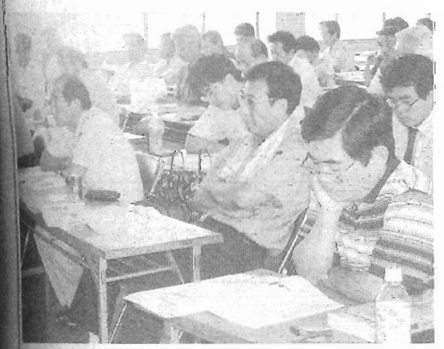
県消防設備安全協会

点検報告制度等を学ぶ

県消防設備安全協会は11日、鹿児島市の県消防会館で昨年改正された消防用設備等基準などの一部改正に関する点検基準や点検要領などの特別講習会を開き、消防関係法令や設備点検項目などの要点等を真剣に受講した。

講習会では冒頭、消防法の一部改正に伴い適正な点検業務の推進に資するために特別研修会を実施した経緯などを説明。消防設備点検報告制度の重要性や消防設備等点検基準・点検要領の改正事項を学んだ。

この中で、警報設備等の点検基準、点検要領の改正では操作盤等や警報設備等のほか、消防用ホースの耐圧性能・連結送水管の耐圧性能、その他消防設備などの点検の要領等を解説した。



真剣に学ぶ受講者
＝鹿児島市の県消防会館で

「AAR／Li工法」開発

アルカリ骨材の劣化抑制

鴻池組等

鴻池組は、大日本塗料（本社・大阪市）、大阪防水建設社（本社・大阪市）、三興塗料（本社・大阪市）と共同で、コンクリート構造物内部のアルカリ骨材反応による劣化を抑制する「AAR／Li工法」を開発した。

アルカリ骨材反応による構造物の劣化は従来、コンクリート構造物のかぶり部分についてのみ発生していると考えられ、補修工法もコンクリート表面部分を対象としたものだった。しかし、近年の調査では、劣化が内部コンクリートにも発生し、鉄筋が破断している事例も報告されている。

今回開発した「AAR／Li工法」では、コンクリート構造物に酸化リチウムを主成分とするアルカリ骨材反応抑制剤を一定期間加圧注入。構造物内部のコンクリートに抑制剤を効果的に浸透、拡散させることで、内部コンクリートのアルカリ骨材反応による膨張を50％以下に低減できる。「AAR／Li工法」は橋梁高架柱補強工事など2件で既に採用実績があり、アルカリ骨材反応で劣化した擁壁の補修工事への適用も予定されている。

問い合わせは、鴻池組管理本部広報課（☎06・6244・2055）まで。

ISO9000、14000シリーズ
認定取得の証明・成績書完備のお知らせ
ISO9000シリーズ
測量機、角度計
(GPS、光波測距儀、トランシット、レベル)
コンクリート固さ強度試験
(万能、耐圧、曲げ、カルバート、シュミットハンマー、試験器)
音響測深機 (海上測深)
質量計
(小型ハカリ、大型トラックスケール)
ISO14000シリーズ
公害、産業廃棄物、計測器
(可燃性ガス、毒性ガス、複合ガス検知器、CO、酸素、下水道、マンホール検知器)
マニフェスト対応
吉松計器㈱
鹿児島市新屋敷町3－28
☎(099)222-1210㈹　FAX(099)222-1246